

スマート都市とは



AI社会

CO2吸収

マイアバター社会構築&ブルーカーボン拡大

SDGS循環社会

ブルーカーボン拡大

リニューアール拡大

スマート都市とは、排出するCO2よりも吸収するCO2の方が多く、空き家・空きオフィス・空き店舗の総数が徐々に減少し、24時間いつでも移動ができ、誰でもが24時間安全に遊べる場所があり、災害時にも安全に過ごせる。

24時間予約可能マイアバターが運転する低速自動運転車&マイアバターが口頭でナビゲートする安全運転車

ユートピア棟

ブルーカーボン+

お酒飲んだら、ゆっくり寝ながら帰宅しましょう。

極楽ベッドマイラクリーントイレにより介護を軽くしたうえで、障害者や要介護者を、子供高齢者を含む集団で遊びながらケアを行えるようにする。

木造人工島のブルーカーボンの養殖場に、アクリル板を敷き、災害発生時に、何千何万という人達が安全に過ごせるようにする。仮設住宅も設置可能。

CO2が減る社会

CO2

24時間移動が可能

災害時安全な家

空家

再開発STOP

無駄なスペースが減る社会

総CO2減ならば化石燃料も可能

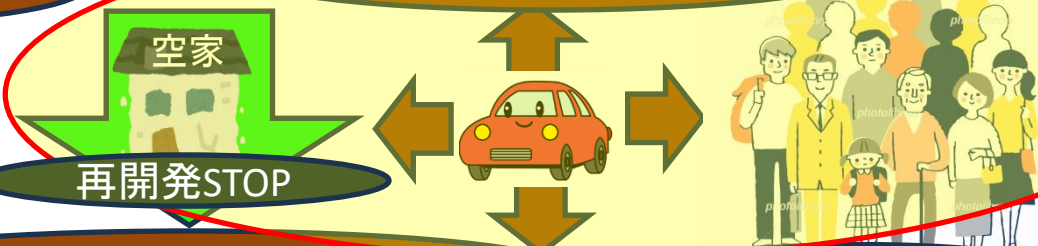
超大規模な開発を伴うので2035年以降

誰でも24時間安全に遊べる場所がある

耐震構造 & 洋上住宅化
100年で達成

海洋 & 河川の再開発により木造人工島の波力(水流)発電 & ブルーカーボン & DAC拡大策

駅前集中型から、全域での平均的活性化



スマート都市の作り方

裏金サイクル(裏金での無駄な発注、増税(2倍)、**未婚率が5倍増**、**生活保護受給率が2.5増**)により、**生活保護受給率が2.5増**が、少子化の最大要因。
一人当たりGDはG7で最低となる。

GDP4位
国際競争力38位



誰でもが幸せになれる社会を目指すべき
=「スマート都市」へ



一億総中流化は理想だが、目指すべきではない。
(どこかの国にしわ寄せ)

GDP1位
国際競争力1位
超低空の空飛ぶ船

マイアバターが運転する低速自動運転車

マイアバター社会

顔認証+社会

誰でもが幸せになれる社会

極楽ベッド&マイラクリーントイレ

ブルーカーボン&DAC拡大社会

ブルーカーボン+社会

木造人工島の波力発電

木造人工島の海産物農業

全方位同時改革 **木造人工島の洋上住宅**

木造人工島の河川水流発電

国民の不安材料を糧にして、例えば「防衛力増強」等を名目にして、必要のない装備や無駄な設備に税金が使われている。
自動スナイパー専守防衛
「地方の課題は存在しない」のに地域ごとに解決しようとしている。「一課題追求型」「メーカー都合の利益優先の提案」なので、有効なものがほとんどない。
バリウスリンク会議

スマート都市
技術的な裏付けのあるシナリオに基づき、達成に必要な企業を募る。

高知県はカーボンニュートラルと地震津波対策とを同時に行う。



ブルーカーボン+ & 洋上住宅エリア

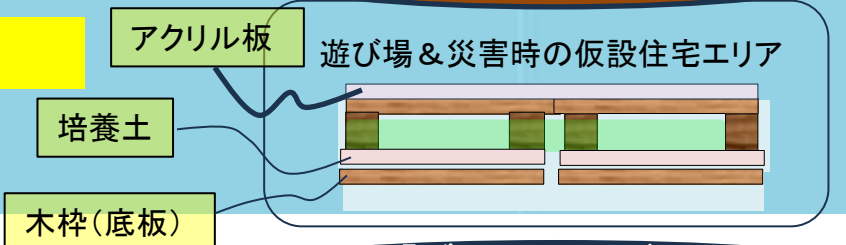
波力発電エリア

ブルーカーボン+エリア

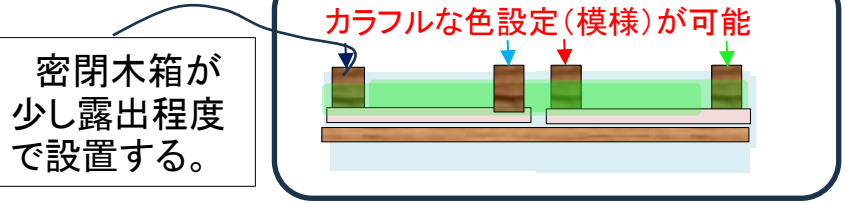
ブルーカーボン+エリア

「木造人工島の波力発電」
海水の流れは浅瀬に向かう性質があり、波は常に海岸に向かってきます。沿岸部に□12mの木造人工島を4個つくり、その上にφ19mの水車を設定し、水車の方向を海岸線に垂直に向け、波の受け口よりも狭い流路幅で水車を回すと高速で回転し、また水は空気のエネギーに比べ770倍なので、トルクが大きく、ギアボックスでの加速が効き、高速で発電機を回し、24時間大容量の発電が可能となる。

「ブルーカーボン+」



「ブルーカーボン」

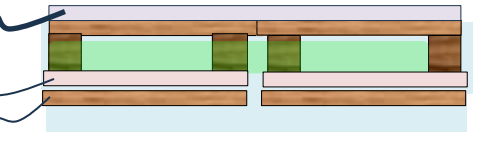




「ブルーカーボン+」

遊び場 & 災害時の仮設住宅エリア

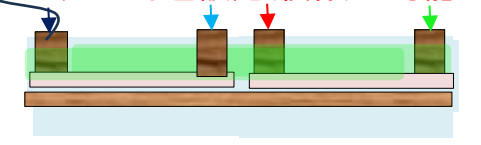
- アクリル板
- 培養土
- 木枠(底板)



「ブルーカーボン」

カラフルな色設定(模様)が可能

密閉木箱が少し露出程度で設置する。



江東区はカーボンニュートラルと地震津波洪水対策を同時に行う。

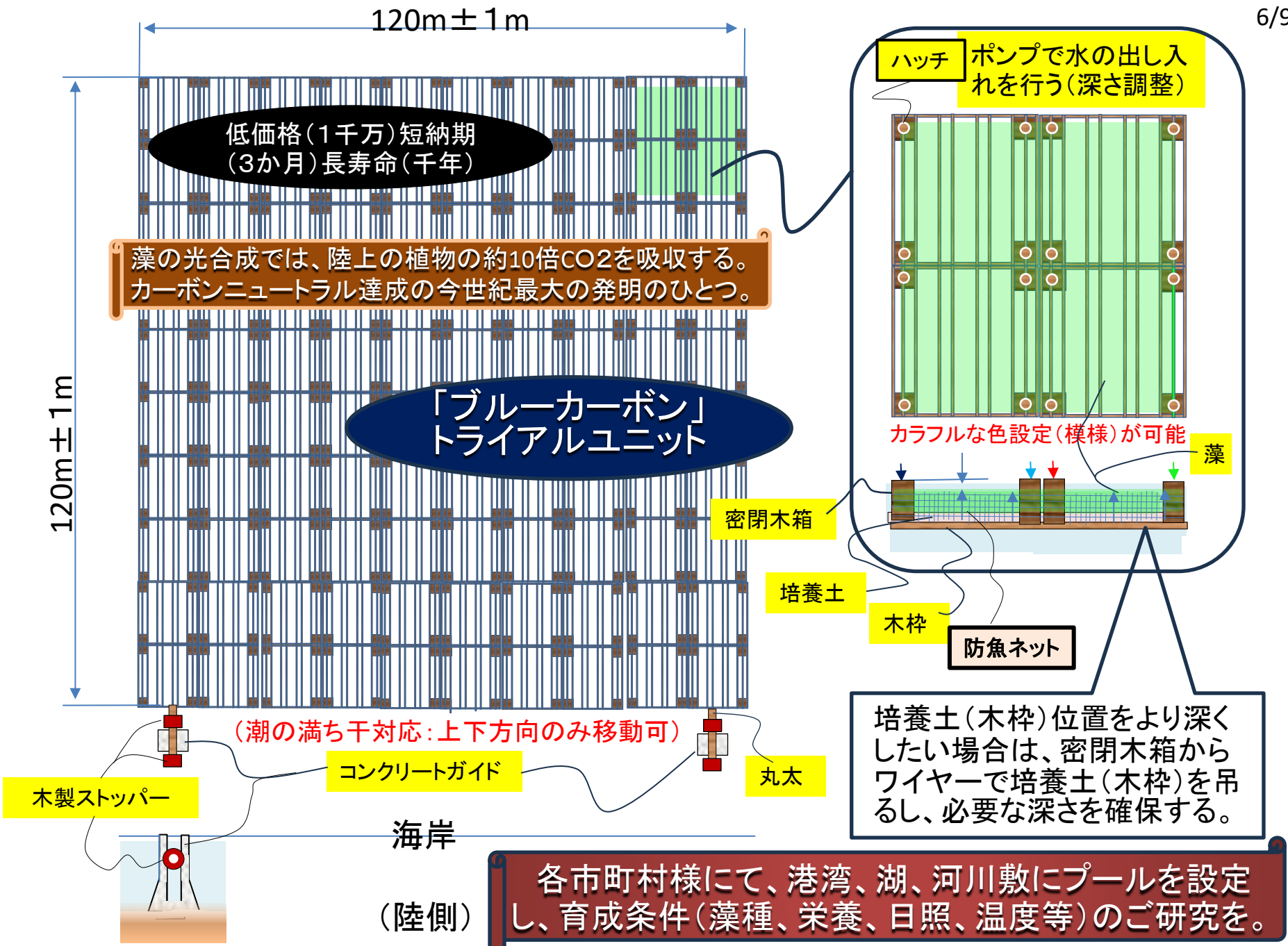
ブルーカーボン+エリア

いかなる地震や大津波にも安全であり、区内の全機能が正常に働き続ける。また、区民のCO2排出分は区内で吸収する。

区役所+消防署+警察署+体育館+文化センター+図書館+商業施設

ブルーカーボンエリア

安全安心な、24時間予約&乗車が可能なマイアバターが運転する「低速自動運転車」及び超低空の「空飛ぶ船」を新交通システムとして整備をする。

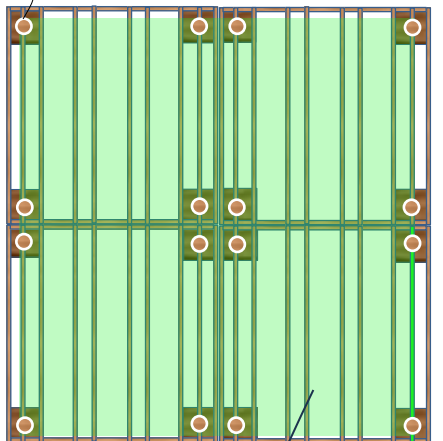


低価格(1千万)短納期(3か月)長寿命(千年)

藻の光合成では、陸上の植物の約10倍CO2を吸収する。カーボンニュートラル達成の今世紀最大の発明のひとつ。

「ブルーカーボン」トライアルユニット

ハッチ ポンプで水の出し入れを行う(深さ調整)



カラフルな色設定(模様)が可能

藻

密閉木箱

培養土

木柱

防魚ネット

(潮の満ち干対応:上下方向のみ移動可)

コンクリートガイド

丸太

木製ストッパー

海岸

(陸側)

培養土(木柱)位置をより深くしたい場合は、密閉木箱からワイヤーで培養土(木柱)を吊るし、必要な深さを確保する。

各市町村様にて、港湾、湖、河川敷にプールを設定し、育成条件(藻種、栄養、日照、温度等)のご研究を。

「イソホロンジアミン」を用いたCO2貯蔵技術

より多くの空気中のCO2(0.04%)を取り込むため、大型タンクに高圧で吸引し、低温・高圧状態でより多くのCO2をイソホロンジアミンに吸収(カルバミン酸に変化)させた後、空気を排出し(真空状態)し、次に槽を高温にすると、カルバミン酸からCO2が分離抽出され、槽内はCO2で満たされる。

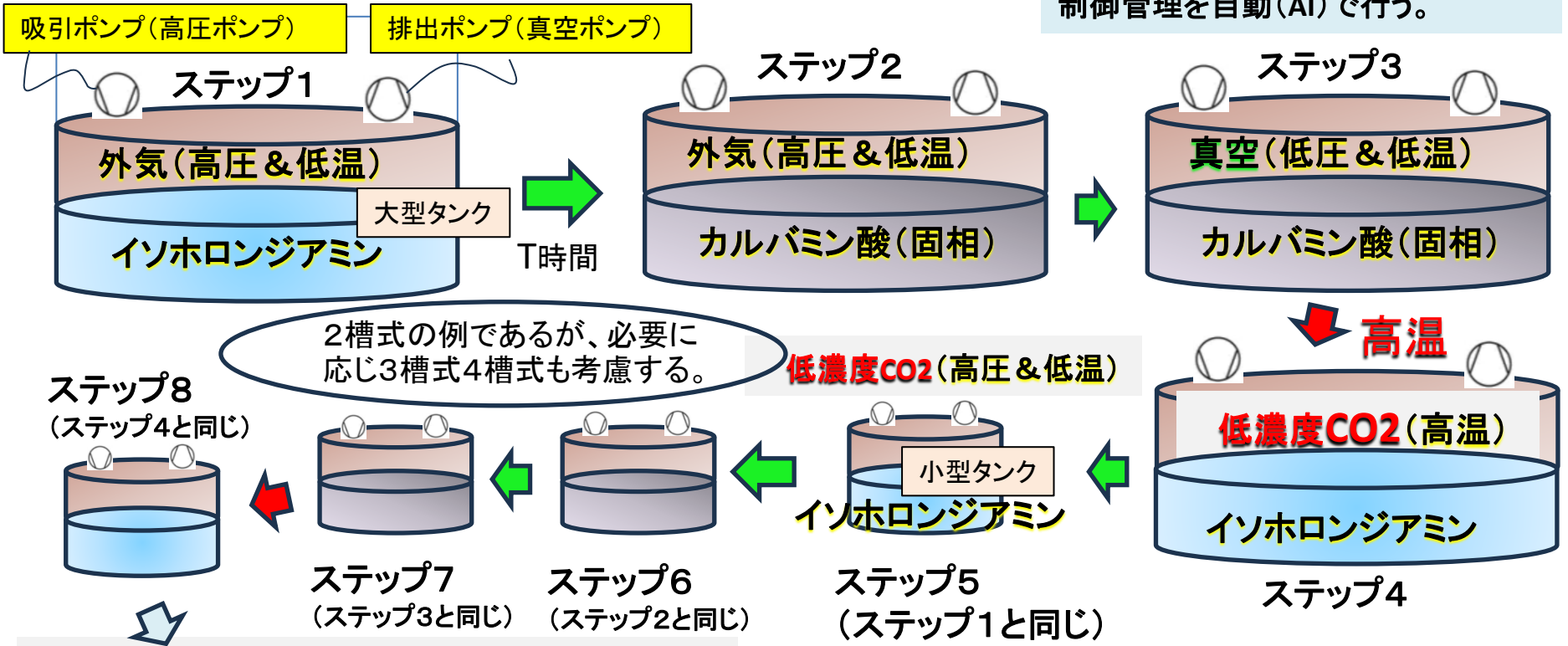
該CO2を(あらかじめ半真空にした)小型の第二層に移動し、圧縮し、低温放置にて、イソホロンジアミンに吸収(カルバミン酸に変化)させる。以下同プロセス後、タンク貯蔵。

大気中のCO2の量

1750年: 278PPM → **40%増加**

2021年: 400PPM (大気の0.04%)

各槽ごとに、各種センサーを設定し、状況を確認しながら、温度及び圧力制御管理を自動(AI)で行う。



ステップ1～ステップ8で得た高濃度CO2を高圧でタンクに貯蔵する: 木造人工島の波力発電の電力を使い、洋上に大規模に展開する

2050年までに全国の市町村ごとに、CO₂の排出量と削減量とがイーブンあるいはCO₂削減量が、排出量を上回るようする。最終的に多少の化石燃料が残存しても、再エネ化とCO₂削減(ブルーカーボンとDAC拡大)で、CO₂削減が上回ればよい。

海岸沿いの都市

カーボンニュートラル

木造人工島波力発電

ブルーカーボン(+)

無人島を含む海岸沿いに設置

海を持たない市町村: 第一ステップ(2040年頃から他に転用又は世界貢献)

当面

木造人工島波力発電

ブルーカーボン(+)

最寄りの沿岸部の都市から海岸を借用する(地中ケーブル)

海を持たない市町村: 最終ステップ(2040頃頃から徐々に拡大: **早期取り組みも推奨**)

最終

プール・水車発電

淡水ブルーカーボン

DAC

河川周りの再開発を伴うので時間がかかるが、理想的な形。

河川の流量の変化に対応し洪水に強い

海を持たない市町村は、最寄りの海のある都市から、場所を借りて(詳細なルール決めが必要になる)波力発電を行い、地中ケーブルにて電力の供給を受け、また、ブルーカーボンの拡大により、CO₂の削減を行います。

それだけではCO₂の削減が足りない場合には、公海上の無人島やどこかの国の無人島を借用しブルーカーボンの拡大を行う。

将来的には、プール・水車発電と淡水ブルーカーボン及びDACにする。

進め方: 従来の進め方は、基本的に企業都合の提案(=企業の利益のための提案)なので、狭い範囲の技術内容であり、有効なものほとんどない・・・

成熟社会での開発手法

ユーザー又は各省庁・自治体主導で、本当に欲しいもの(本当に使い易いもの、本当に有効なもの)を考え、それを達成するために必要な企業を集め、**使う側の意見をよく聞いて、全体での議論をしながら開発を進める**、「官民連携のバリウスリンク会議」による開発手法が必要である。

ガーデンフィールドのHPの「木更津官民バリウスリンク会議」をご参照下さい。

プール作りで生じた大量の土砂を使用し、堤防に盛り土をするので、洪水に対してより安全になる。

河川の流量の変化に順応し、洪水に強い「河川のプール・水車発電」

安価

安全

長寿命

工事手順

1. 河川のバイパスを造る
2. プールを造る。
3. プールの底から泥水を抜く配管をつくる。
4. 木造人工島を造る
5. 大型水車及び発電機を設置する。

工事中は河川バイパス↓完成後は多目的用途

